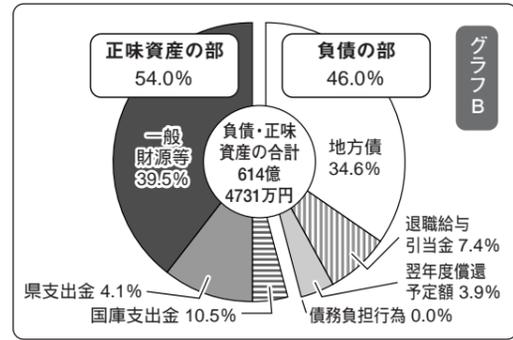


▼資産の部
「資産の部」には、新津市が昭和四十四年度から平成十五年度までの三十五年度で形成した資産が計上されています。資産全体の約九割を占める有形固定資産を目的別(グラフA)に見ると、道路や橋りよう建設などの土木費が最も多く、次いで教育費となっています。

▼負債の部・正味資産の部
「負債の部」には将来必ず返済や支払いをしなければならない地方債や退職給与引当金、「正味資産の部」には返済義務のない自己財源(国や県からの補助金および市税、使用料など)が計上されています。その内訳(グラフB)を見ると、資産の約半分以上が、自己財源で成



▼十四年度のバランスシートと比べてみると…
資産の部は平成十四年度(下表2)より減少していますが、資産に対する正味資産の割合は平成十四年度の五三・五割から平成十五年度は五四・〇割へと若干増加しています。

▼市民一人当たりについて
バランスシートの金額を、市民一人当たり(換算下表1)すると、より身近なものとしてとらえることができます。また、人口規模などに関係なく、他市町村との財政状況の比較もしやすくなります。

<平成14年度のバランスシート>...表2

資産の部	負債の部
有形固定資産合計 554億2606万円	負債合計 289億9244万円
投資等合計 42億9167万円	正味資産の部
流動資産合計 25億7451万円	正味資産合計 332億9979万円
資産合計 622億9224万円	負債・正味資産合計 622億9224万円

<市民一人当たりのバランスシート>...表1

資産の部	負債の部
有形固定資産合計 815,746円	負債合計 416,068円
投資等合計 61,004円	正味資産の部
流動資産合計 27,911円	正味資産合計 488,593円
資産合計 904,661円	負債・正味資産合計 904,661円

※平成16年3月末日現在住民基本台帳人口 67,923人

◆行政コスト計算書(普通会計)

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

<行政コスト>	
人にかかるコスト(職員の人件費など)	40億5255万円
物にかかるコスト(事務用品費、建物の補修費、減価償却費など)	57億8251万円
市民や団体への給付金(各種手当、補助金など)	74億6943万円
その他のコスト(市債利子、不納欠損額)	7億5218万円
行政コスト計 (A)	180億5666万円
<収入項目>	
使用料・手数料など	15億3756万円
国や県からの支出金	17億8992万円
一般財源など(市税、地方交付税など)	142億7289万円
収入計 (B)	176億 36万円
正味資産国庫(県)支出金償却額 (C)	5億1137万円
一般財源等増減額 (B)-(A)+(C)	5507万円

行政コスト計算書とは、行政サービスを行うために必要な経費(コスト)と、その費用の出どころを示したもので、企業会計における損益計算書に相当するものです。バランスシートと一緒に見ると、地方自治体の活動をより知ることができます。

- 市民1人当たりのサービスは約265,843円
平成15年度1年間に、市が提供した行政サービスに要した費用の総額(行政コスト計)は、180億5666万円(左表の(A))でした。これを平成16年3月末日の人口で割ると、1人当たり265,843円相当のサービスを提供したことになります。
- サービスに必要な費用(コスト)の財源は?
行政コスト計(左表の(A))に対するそれぞれの収入項目の割合で比較(下表)すると、費用の約79%が市税や地方交付税など一般財源などから、約9%が利用者が支払う使用料・手数料などから賄われています。

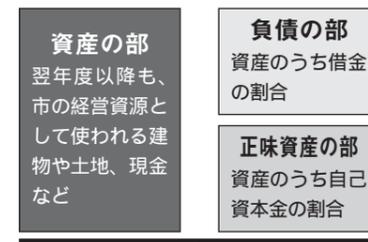
使用料・手数料など	8.5%
国や県からの支出金	9.9%
一般財源など(市税、地方交付税など)	79.0%

平成15年度 バランスシート&行政コスト計算書

新津市の財政状況をより一層理解してもらうために、企業の会計手法を用いて市が保有する資産や財源の内訳を「バランスシート」で、あわせて行政サービスにかかった費用やその出どころを「行政コスト計算書」でお知らせします。

■問い合わせ 財政課財政係 (☎24-2111 内線351)へ。

<バランスシートのしくみ>



▼バランスシートの要約表
バランスシートは貸借対照表ともいい、民間企業などが財政状況を示すための会計報告書です。これにより予算の使い道や財源が明らかとなります。

▼バランスシートのしくみ
バランスシートは、借方と貸方で構成されています。借方は「資産の部」として、これまでの予算を何に運用してきたのかを示しています。一方、貸方は「負債の部」と「正味資産の部」に分類され、「資産の部」で表された総額のうち、どれだけが借金によるものなのか、あるいは自己資本金によるものなのかといった財政状況を示しています。

市が保有する資産の状況と保有している財源は何によって賄われているのかを、一つの表で比較することができます。

◆バランスシート(平成16年3月31日現在)

借方	貸方
<資産の部>	
1.有形固定資産	
(1)総務費(市庁舎など)	34億9277万円
(2)民生費(保育所、福祉施設など)	23億2505万円
(3)衛生費(ごみ処理施設、し尿処理施設など)	56億9461万円
(4)労働費(勤労青少年ホームなど)	1億1664万円
(5)農林水産業費(グリーンセンター、林道など)	27億9635万円
(6)商工費(石油の里物産館など)	18億4318万円
(7)土木費(橋りよう、公園、市営住宅など)	195億2555万円
(8)消防費(消防庁舎、消防自動車など)	7億7133万円
(9)教育費(学校、図書館、地域学園など)	188億3995万円
(10)その他	254万円
有形固定資産合計	554億 797万円
(うち土地)	169億 499万円
2.投資等	
(1)投資及び出資金	6億5611万円
(2)貸付金	12億7890万円
(3)基金	22億 854万円
②投資等合計	41億4355万円
3.流動資産	
(1)現金・預金	14億9591万円
(2)未収金(市税などで決算時に未収であるもの)	3億9988万円
③流動資産合計	18億9579万円
資産合計(+②+③)	614億4731万円
<負債の部>	
1.固定負債	
(1)地方債	212億8891万円
(2)債務負担行為	0万円
(3)退職給与引当金	45億5362万円
固定負債合計	258億4253万円
2.流動負債	
(1)翌年度償還予定額	24億1806万円
②流動負債合計	24億1806万円
負債合計(+②)	282億6059万円
<正味資産の部>	
1.国庫支出金	64億2159万円
2.県支出金	24億9633万円
3.一般財源等	242億6880万円
正味資産合計	331億8672万円
負債・正味資産合計	614億4731万円

※債務負担行為情報(新津地域土地開発公社など) 物件の購入等...13億3347万円 ②債務保証および損失補償...36億6700万円

バランスシートの留意事項
 ・このバランスシートは、総務省の基準に従って作成されています。
 ・対象会計範囲は一般会計のみで、特別会計(下水道事業など)や企業会計(水道事業)は含まれていません。

・昭和44年以降の地方財政状況調査表のデータを基礎数値に用いているため、昭和43年以前のデータは含まれていません。
 ・表内の金額は1万円未満を、グラフ内の比率は小数点第1位未満を四捨五入していますので、合計と合わない場合があります。